

国際探求学科 2年 スピーチ特別講義

- 1 目 的 スピーチの書き方や改善方法について学ぶとともに、効果的なプレゼンテーション方法を学び、校内、校外スピーチコンテストでの発表に備える。
- 2 日 時 令和元年6月4日（火） 13時00分～15時30分
- 3 場 所 視聴覚教室
- 4 講 師 野村 和宏教授（神戸市外国語大学外国語学部英米学科）
- 5 講義内容 「英語スピーチ原稿の書き方入門」「英語スピーチより良い発表に向けて」
- 6 対象生徒 2年1組（国際探求学科2年：39名）
- 7 内 容 13:00～13:20 受 付 （事務室）
13:20～15:10 特別講義



前半は「英語スピーチ原稿の書き方入門」と題して、スピーチを書く際の留意点についてチェックリスト形式で確認したり、実際のスピーチの一部を比較したり、完成したスピーチの分析を通して、スピーチ原稿の構想の仕方やまとめ方について学んだ。

後半は「英語スピーチより良い発表に向けて」と題して、印象に残るスピーチにするためのデリバリーや暗記の大切さについての講演を聞いた。実際のスピーチの練習方法についても触れられ、実演を交えながらの講演は非常に内容の濃いものとなった。

校内スピーチコンテストで優秀な成績を残した生徒は、兵庫県スピーチコンテスト阪神大会や、チャール杯英語弁論大会などの外部コンテストにも応募、出場した。

【生徒感想】

- ・スピーチを構成する文章は、論理的根拠（Logos）と個人的感情（Pathos）を組み合わせ、発表者自身と聴衆の双方が納得いくものにする。類似する単語や表現を並べると聴衆の耳に残りやすく効果的である。主題を先に示すと聴衆の興味を損なう。スピーチの文章を構成し、発表することは簡単そうで難しく奥深さがあると感じた。改めて自分のスピーチ原稿を見直すためのきっかけになった。
- ・スピーチの原稿づくりでちょうど行き詰っていたので、講義を受けてから自分の原稿の足りないところを再確認できてよかった。
- ・スピーチを書くには、個人的な部分と客観的な部分の両方をバランスよく入れなければいけないとわかった。書き出しが重要だと学んだ。